

# 新型コロナウイルス感染症の第7波の中で

令和4年7月22日 置賜保健所長

連日の新規患者数の増加を報道でご覧になり、皆さまご心配のことと思います。

確かにオミクロン株（BA5）は感染力が強く、過去に感染された方の再感染やワクチン3回接種済みであっても感染していますが、乳幼児やワクチン接種済みの壮年期の方では、発症直後に高熱が出て、過去のタイプと異なり、肺炎など重症化することが少ないことがわかってきました。

一方で、医療機関へは発熱などの症状で検査を希望する患者が殺到し、日常の診療にも支障を来すことが心配される状況です。恐らく、今後も1カ月程度は患者の高止まりが続くと予想されるため、この波を乗り切るためのポイントを「災害に備える」視点からまとめてみましたので、ご活用ください。

## □家族の食糧は3日間ほど備蓄されているか

県では、ご希望のあるご家庭に食糧支援を行っていますが10日間の自宅療養期間分ではありません。特に小さいお子様では、発熱後に食欲がなくなることが多いので、脱水を予防するような飲み物や冷たいアイスクリームなどを備蓄しましょう。

## □解熱剤は常備しているか

夜間の急な発熱の際、直ちに医療機関へ受診することは、ご家族やお子様にとっても負担が大きいです。まず、自宅にある解熱剤を使い、水分摂取と保冷剤を使ってみることも一つの方法です。既に同居家族さまが新型コロナ陽性となっている場合、その後にご家族が発症した際は検査を受けずに「みなし陽性」と診断できますので、お薬の準備をお勧めします（薬局でも販売されています）。

## □「こどもの救急」アプリを登録しているか

高熱が出た際、過去に熱性けいれんを起こしたお子様では、慎重な観察が大切です。その際、救急車を呼ぶかどうかの判断に迷う場合、このアプリを活用すると指示が出ますので、是非、事前登録をしましょう。

## □高齢者との接触は慎重に

家族内に陽性者が出たあと、母子で実家に避難し高齢の祖父母に感染してしまうことがあります。新型コロナウイルスは、発病2日前から感染性がありますので、家族が発病後に離れても間に合わないことが多いです。「今」元気でも、その夜に発病することを想定し、慎重な対応をご検討ください。